



医療法人光生会 赤岩病院

赤岩 NST だより 第6号

NST : Nutrition Support Team

発行日：2025年5月1日

担当：NST ミーティング

編集：栄養科

連絡先：内線 150

テーマ： ミールラウンド

ミールラウンドが推進される様になった背景

近年、管理栄養士の病棟業務の増加に伴い、給食管理から患者様の栄養管理の業務が主になってきています。そのような流れの中で、介護報酬や診療報酬改訂の際には、栄養管理においてミールラウンドを行うことが必須となっています。

低栄養のリスクの有無に関わらず日頃から、患者様の食事の様子を観察することが栄養管理を行う上で重要であると言えます。

	令和3年	令和4年	令和6年
診療報酬		※特定機能病院 「入院栄養管理体制加算」 管理栄養士の専従配置が施設基準 ①栄養状態に関する定期的な評価 ②必要に応じたミールラウンド	※急性期 「リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」 病棟ごとの専任管理栄養士が施設基準 ①入棟後48時間以内に患者に対面し、 入院前の食生活や食物アレルギー等の確認 ②GLIM評価を用いた栄養状態の評価 ③定期的な食事状況の観察、必要に応じた 食事調整の提案等 ※地域包括医療病棟
介護報酬	「栄養マネジメント強化加算」 ①多職種協働で栄養計画書の作成 ②低栄養リスクが中・高該当者に対し、週3以上のミールラウンド実施 ③栄養状態、嗜好を踏まえた食事の調整		

ミールラウンドの定義

日本誤嚥性肺炎予防協会は、「歯科医師、看護師、言語聴覚士、栄養士などの多職種の専門家が、実際の食事場面を通じて摂食状況をみて回ること」としています。

当院では栄養管理計画書（介護医療院では栄養ケア計画書）を作成し、その計画に沿って栄養管理を行っています。その際患者様の栄養状態を把握するためにミールラウンドは必要不可欠です。昼食時を中心に、各病棟担当の管理栄養士が食堂や病室へ伺い、食事の様子を確認しています。食欲が低下していないか、誤嚥の危険性はないかなど、安全に美味しく召し上がっていただくためにいくつかのポイントに注意して見えています。いつもと違う様子や、気になることがあれば、看護師や介護士など多職種に確認することもよくあります。



具体的な観察項目の例

1	上半身が左右や前後に傾く傾向があり、座位の保持が困難である
2	頸部が後屈しがちである
3	食事を楽しみにしていない
4	食事をしながら、寝てしまう
5	食べ始められない、食べ始めても頻繁に食事を中断してしまう、食事に集中できない
6	食事又はその介助を拒否する
7	食事に時間がかかり、疲労する
8	次から次へと食べ物を口に運ぶ
9	口腔内が乾燥している
10	口腔内の衛生状態が悪い
11	嚥むことが困難である（歯・義歯の状態又は咀嚼能力等に問題がある）
12	硬い物を避け、軟らかいものばかり食べる
13	上下の奥歯や義歯が噛み合っていない
14	口から食物や唾液がこぼれる
15	口腔内に残渣が目立つ
16	食物をなかなか飲み込まず、嚥下に時間がかかる
17	食事中や食後に濁った声になる
18	一口あたり何度も嚥下する
19	頻繁にむせたり、せきこんだりする
20	食事中や食後に濁った声に変わる
21	食事の後半は疲れてしまい、特に良くむせたり、呼吸音が濁ったりする
22	観察時から直近1ヶ月程度以内で、食後又は食事中に嘔吐したことがある
23	食事の摂取量に問題がある（拒食、過食、偏食など）

引用：厚生労働省 経口移行・経口維持計画書



当院では、医療病棟はNSTの活動、介護医療院は、経口維持、経口移行加算の取り組みの中で、ミールラウンドやカンファレンスを行い多職種との連携を図っています。管理栄養士だけでは、一人一人の患者様に適切な栄養管理を継続していくことは難しく、多職種から様々な視点で意見をもらい進めています。引き続き、安全安心な食事の提供に加えて、チーム医療の中で患者様の栄養管理を行っていきます。